



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月6日  
東

上場会社名 株式会社 デサント 上場取引所  
 コード番号 8114 URL http://www.descente.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小関 秀一  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 土橋 晃 (TEL) 03-5979-6110  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	86,099	12.3	7,300	66.7	10,445	79.1	10,172	105.4
2022年3月期第3四半期	76,681	15.1	4,380	—	5,832	—	4,952	2.6

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 14,486百万円(140.1%) 2022年3月期第3四半期 6,032百万円(84.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	134.74	—
2022年3月期第3四半期	65.62	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	135,907	100,615	73.1
2022年3月期	116,375	86,658	74.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 99,326百万円 2022年3月期 86,658百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	118,000	8.4	8,100	57.6	12,300	62.8	10,000	60.5	132.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 2社(社名) ARENA (SHANGHAI) INDUSTRIAL CO., LTD. 除外 1社(社名) —  
LE COQ SPORTIF (NINGBO) CO., LTD.

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料の9ページ、「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	76,924,176株	2022年3月期	76,924,176株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,419,986株	2022年3月期	1,444,610株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	75,494,339株	2022年3月期3Q	75,470,364株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会社方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	11
海外売上高	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、前年同四半期比で増収増益となりました。

日本ではデサントジャパン株式会社が、返品率・値引率を低水準で維持したことに加え、『デサント』ブランドが売上を牽引し、第2四半期連結累計期間に引き続き、営業利益も含めた各利益項目において過去最高益となり、大きな利益貢献を果たしました。韓国では、当第3四半期連結会計期間（7月から9月）においてもアスレチックカテゴリーが引き続き好調でした。中国では、8月以降、各地で新型コロナウイルスの拡大により発生したロックダウンの影響があったものの、第2四半期連結会計期間からARENA (SHANGHAI) INDUSTRIAL CO., LTD. (以下、ASH) を連結業績に取り込んでいることが寄与し、前年同四半期比で増収となりました。結果として、当第3四半期連結累計期間における売上高は前年同四半期比12.3%増の86,099百万円となりました。

売上総利益は、一部の商品で原価高騰の影響はありましたが前年同四半期比14.2%増の49,599百万円となり、増益となりました。販管費については、販売手数料などの変動費や広告販促費などの増加があったため、前年同四半期比8.3%増の42,298百万円でしたが、売上総利益の増加が販管費の増加を上回り、営業利益は前年同四半期比66.7%増の7,300百万円となり、第2四半期連結累計期間に引き続き増益を果たしました。経常利益は営業利益の増加に加え、韓国の持分法適用関連会社であるARENA KOREA LTD. (以下、AK) および中国の持分法適用関連会社であるDESCENTE CHINA HOLDING LIMITED. (以下、DCH) の業績伸長により持分法による投資利益が増加したことで前年同四半期比79.1%増の10,445百万円となりました。

2022年8月8日に公表した「持分法適用関連会社の異動（連結子会社化）及び特定子会社の異動に関するお知らせ」のとおり、当第3四半期連結会計期間にLE COQ SPORTIF (NINGBO) CO., LTD. (以下、NLCS) の株式取得に伴う段階取得に係る差益等の特別利益2,132百万円を計上しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は86,099百万円（前年同四半期比12.3%増）、営業利益は7,300百万円（前年同四半期比66.7%増）、経常利益は10,445百万円（前年同四半期比79.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10,172百万円（前年同四半期比105.4%増）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。なお、在外子会社の決算期は12月であり、各セグメントの業績には持分法適用関連会社の数値は含まれておりません。

## (セグメント別売上高)

セグメントの名称	売上高(百万円) (前年同四半期比)	セグメント利益又は損失(百万円) (前年同四半期比)
日 本	39,934 (110.0%)	4,437 (前年同四半期2,186百万円)
韓 国	40,948 (113.1%)	3,251 (前年同四半期1,292百万円)
中 国	3,637 (116.5%)	261 (前年同四半期386百万円)
そ の 他	— —%	— (前年同四半期△0百万円)
調 整 額	1,579	△650 (前年同四半期514百万円)
合 計	86,099 (112.3%)	7,300 (前年同四半期4,380百万円)

※ セグメント利益又は損失は、当社グループにおける営業利益又は損失であります。

## (日本)

当第3四半期連結累計期間においては、『デサント』は11月に新作の発売を開始した「水沢ダウン」が好調なこともあり、引き続き増収となっています。また、『アリーナ』においては、各流通で堅調に推移しており、特に直営店でトップスイマーモデルが好調です。また、全体では返品率・値引率も低い水準を維持していることによりセグメント売上高は39,934百万円になり、前年同四半期比で増収となりました。依然として円安の状況は続いておりますが、原価への影響は一部に留まったため、売上総利益は増加し、当セグメント利益も増益となり、4,437百万円となりました。以上のことから日本セグメントとしては、過去最高益となりました。

## (韓国)

7月から8月における夏物の販売好調及び9月には秋物の販売が例年より順調に滑り出したことで増収となり、売上高は40,948百万円となりました。特に『アンブロ』は前年同四半期比63.1%増と大きく伸長、ストリートファッション商材やシューズの売上が継続して好調です。その結果、当セグメント利益も増益となり、3,251百万円となりました。なお、当セグメント利益には含まれませんが、持分法適用関連会社であるAKが事業展開する『アリーナ』ブランドは韓国では特にシェアが高く、前年同四半期比でプールの開業率が高まったことを受け、水着の需要が増加し、大幅に業績が伸長しました。

(中国)

第2四半期連結会計期間よりASHの業績を中国セグメントに加えたことにより増収となりましたが、8月以降の中国各地でのコロナ再拡大による店舗の一時閉鎖や営業時間の短縮、外出制限等の影響を大きく受け減益となりました。結果としてセグメント売上高3,637百万円、セグメント利益は261百万円となりました。なお、当セグメント利益には含まれませんが、『デサント』ブランドを展開する持分法適用関連会社であるDCHは当第3四半期連結累計期間においても業績が伸長しました。

品目別売上高の状況は次のとおりであります。

(品目別売上高)

区 分	金 額	構 成 比	前年同四半期比
	百万円	%	%
アスレチックウェア及びその関連商品	53,483	62.1	115.2
ゴルフウェア及びその関連商品	25,941	30.1	107.0
アウトドアウェア及びその関連商品	5,095	5.9	102.7
調整額	1,579	1.8	149.5
合 計	86,099	100.0	112.3

(アスレチックウェア及びその関連商品)

引き続き全展開エリアで『デサント』が売上を牽引している他、『アリーナ』も堅調に推移したこと及び韓国での『アンブロ』の増収も貢献し、全体として当カテゴリーの売上高は前年同四半期比15.2%増の53,483百万円となりました。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

日本においては、『デサント』『ルロックスポルティフ』『ランバン スポール』はハイエンドカテゴリーの販売が好調でした。また、銀座にあるゴルフ複合店のDESCENTE GOLF COMPLEX GINZAで前年同四半期に比べ業績が伸長しています。コロナ禍以降、顕著な伸びを見せていたゴルフ市場の成長は鈍化していますが、全体として当カテゴリーの売上高は前年同四半期比7.0%増の25,941百万円となりました。

(全社的な取り組み)

当第3四半期連結累計期間において、持分法適用関連会社であるNLCSの株式を取得し、連結子会社化いたしました。なお、連結業績への取り込みは第4四半期連結会計期間からとなります。今後は中国における『ルロックスポルティフ』のブランドポジションの見直しなどのリブランディングを含む事業整理を実施し、再度成長軌道に乗せることを目指し体制を整えて参ります。

当社は日本において構造改革を順調に進めており、更なる成長のためにDTC事業拡大を目指し、ブランド認知向上のための様々な取り組みを実施しています。『デサント』では、大谷翔平選手が今シーズンに成し遂げた二刀流ならではの“3つの史上初”の達成を記念して「DESCENTE×SHOHEI OHTANI 2022 Anniversary Collection」を発売、12月初旬より予約を開始し、49着限定の「MIZUSAWA DOWN FOR SHOHEI OHTANI」には4,000件を超える応募が集まり、新しいお客様とのつながりを作ることが出来ました。ルミネ新宿にオープンしている期間限定ショップ「DESCENTE ルミネ新宿」には、これまで当社の店舗との接点が少なかった新しいお客様の来店も目立っています。

『アリーナ』は今期から新たに水着等のスポーツウェアに関するアドバイザー契約を締結している本多灯(ほんだ ともる)選手(所属:日本大学/アリーナつきみ野スポーツクラブ)が第64回日本選手権水泳競技大会男子200mバタフライで短水路世界新記録を樹立し、多くの人にブランドを知っていただく機会となりました。また、ジャパンオープン2022でも着用率1位になるなど、水着ブランドとしての信頼を高めています。

当社はSDGsを実現するために、スポーツを「遊ぶ」ための健康な体と心を育成する取り組みを実施しています。10月に、東京オフィスの所在地である豊島区の公園で、やる人も観る人も一体となって楽しむことが特徴の「アーバンスポーツ」を体験してもらうイベント「スクール オブ アーバンスポーツ in イケサンパーク」を開催しました。DJの音楽に合わせて2本の縄をパフォーマンスしながら跳ぶ“ダブルダッチ”や体の様々な部分を使ったリフティングを見せる“フリースタイルフットボール”などのパフォーマーが世界トップクラスの技を披露すると共に、子どもから大人まで約500人がそれらの競技を体験する機会となりました。韓国ではDESCENTE KOREA LTD.がスポーツ振興活動を目的とした財団法人デサントスポーツ財団に対して、2013年の設立以降、後援金寄付を継続し、スポーツ振興を支援しています。デサントスポーツ財団は、「スポーツルキー支援」として主に経済的な理由によりスポーツに打ち込むことが困難な環境にある高校生アスリートに対し、訓練支援金の補助やメンタルサポートの提供を行い、対象者の全国大会出場を実現しています。当社は今後もマテリアリティに基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを続けていきます。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は135,907百万円となり、前連結会計年度末に比べ19,532百万円増加しました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ11,989百万円増加し、85,656百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加2,665百万円、受取手形及び売掛金の増加2,919百万円、商品及び製品の増加6,104百万円などによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ7,542百万円増加し、50,250百万円となりました。これは主にのれんの増加3,084百万円などによるものです。

負債合計は前連結会計年度末に比べ5,575百万円増加し、35,291百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の増加3,148百万円、固定負債のその他に含まれるリース債務の増加2,360百万円などによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ13,956百万円増加し、100,615百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加8,285百万円、為替換算調整勘定の増加4,350百万円などによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ、1.4%減の73.1%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、2022年11月7日に公表しました「2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」の業績予想から変更はありません。

また、配当予想につきましては、本日(2023年2月6日)公表いたしました「配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」のとおり、1株当たり40円配当といたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,113	37,778
受取手形及び売掛金	15,028	17,947
商品及び製品	19,093	25,197
仕掛品	159	635
原材料及び貯蔵品	533	539
その他	3,796	3,624
貸倒引当金	△56	△66
流動資産合計	73,667	85,656
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,005	8,933
その他	12,919	14,713
有形固定資産合計	21,925	23,646
無形固定資産		
のれん	-	3,084
その他	1,822	1,609
無形固定資産合計	1,822	4,694
投資その他の資産		
投資有価証券	13,645	18,269
退職給付に係る資産	69	-
その他	5,293	3,684
貸倒引当金	△48	△44
投資その他の資産合計	18,960	21,910
固定資産合計	42,708	50,250
資産合計	116,375	135,907
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,249	15,397
短期借入金	-	590
未払法人税等	546	947
賞与引当金	1,477	861
その他	11,235	10,187
流動負債合計	25,508	27,985
固定負債		
退職給付に係る負債	-	127
その他	4,208	7,179
固定負債合計	4,208	7,306
負債合計	29,716	35,291

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,377	25,436
利益剰余金	53,594	61,879
自己株式	△615	△605
株主資本合計	82,202	90,556
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	289	334
繰延ヘッジ損益	△5	△17
為替換算調整勘定	3,637	7,987
退職給付に係る調整累計額	535	465
その他の包括利益累計額合計	4,456	8,770
非支配株主持分	-	1,288
純資産合計	86,658	100,615
負債純資産合計	116,375	135,907



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	76,681	86,099
売上原価	33,257	36,500
売上総利益	43,424	49,599
販売費及び一般管理費	39,044	42,298
営業利益	4,380	7,300
営業外収益		
受取利息	126	261
受取配当金	55	78
持分法による投資利益	1,363	2,381
為替差益	17	414
その他	136	128
営業外収益合計	1,699	3,263
営業外費用		
支払利息	47	58
固定資産除却損	62	41
その他	136	19
営業外費用合計	247	118
経常利益	5,832	10,445
特別利益		
事業譲渡益	50	-
段階取得に係る差益	-	2,097
固定資産売却益	1,819	-
負ののれん発生益	-	35
特別利益合計	1,869	2,132
特別損失		
減損損失	62	-
特別損失合計	62	-
税金等調整前四半期純利益	7,639	12,577
法人税、住民税及び事業税	1,066	1,433
法人税等調整額	1,621	971
法人税等合計	2,687	2,405
四半期純利益	4,952	10,172
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,952	10,172

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	4,952	10,172
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	45
繰延ヘッジ損益	△22	△11
為替換算調整勘定	321	3,019
退職給付に係る調整額	△71	△69
持分法適用会社に対する持分相当額	851	1,330
その他の包括利益合計	1,080	4,314
四半期包括利益	6,032	14,486
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,032	14,486

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1, 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	日本	韓国	中国	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	36,289	36,213	3,122	—	75,625	1,056	76,681
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,528	344	26	—	3,900	△3,900	—
計	39,818	36,558	3,149	—	79,525	△2,843	76,681
セグメント利益又は損失	2,186	1,292	386	△0	3,865	514	4,380
その他の項目							
持分法による投資損益	—	△43	1,497	—	1,454	△90	1,363
持分法適用会社への投資額	—	148	12,074	—	12,222	—	12,222

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額は、純粋持株会社である当社で計上したものであります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去、棚卸資産の未実現利益の調整額、及び各報告セグメントに配分していない当社の損益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1, 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	日本	韓国	中国	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	39,934	40,948	3,637	—	84,520	1,579	86,099
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,319	747	93	—	4,160	△4,160	—
計	43,254	41,695	3,730	—	88,680	△2,581	86,099
セグメント利益	4,437	3,251	261	—	7,950	△650	7,300
その他の項目							
持分法による投資損益	—	321	2,059	—	2,381	—	2,381
持分法適用会社への投資額	—	335	16,455	—	16,790	—	16,790

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額は、純粋持株会社である当社で計上したものであります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去、棚卸資産の未実現利益の調整額、及び各報告セグメントに配分していない当社の損益であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、「日本」に含めておりました当社について、2022年4月より純粋持株会社体制へ移行したため、「調整額」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

## 3. 補足情報

## 海外売上高

前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

(単位：百万円、%)

	韓国	中国	その他	計
I 海外売上高	34,408	6,291	966	41,666
II 連結売上高				76,681
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	44.9	8.2	1.3	54.3

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

(単位：百万円、%)

	韓国	中国	その他	計
I 海外売上高	38,758	8,043	2,092	48,895
II 連結売上高				86,099
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	45.0	9.3	2.4	56.8

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。